

社会技術革新学会 設立趣意書（要旨）

明治維新から約140年を経過し、この間に日本社会は藩という地域的(ローカル)な体制から地球的(グローバル)な体制へと転換が進んだ。そして先進諸国を追走する時代は終わり世界を先導する時代を迎えて、大きな転換点に立っている。こうした転換期を乗り越えるためには、地球規模の課題から日本固有の課題まで、技術革新と社会変革が不可欠である。

日本は明治以来、幾多の激しい変革を経験しながら、経済・技術大国といわれるまでになった。こうした世界に他に類を見ない経験を検証し活かすことは、世界において日本の果たすべき重要な役割である。そして、技術の革新の進展を「技術の歴史」として、それらの展開を支えた人々の思いと活動を通して改新されていった人々の姿を「人材の歴史」として、またそれらの展開と連動してもたらされた規範の改革を「制度の歴史」として、加えて、生活・社会の変革を「社会の歴史」として俯瞰しつつ、社会のそれぞれの現場を基点として検証することは、新たな変革の原動力を生み出す機会となる。

我々は、学界、産業界、労働界、市民・消費者そして行政、NGO・NPOなどの幅広い者の参画のもと、研究・開発、生産・販売そして経営の現場に限らず広い社会のそれぞれの現場にしっかりと軸足を置いて、今日までの足跡を省み自由な論議の中で切磋琢磨しながら、知識基盤の整備や人材の育成などの役割を果たしていく拠点として、社会技術革新学会、通称「現場基点学会」の設立を決意した。

当学会は、過去数年間にわたり勉強会を組織し教材の策定や公開講座での講義を行ってきた実績を継承しつつ、調査・分析・研究、集大成・体系化、教育・

普及・啓発に関する事業などを社会の各界との連携・協力のもと継続的かつ安定的に実施することにより、それぞれの現場の活動に資するとともに社会の健全かつ持続的な発展に寄与することを目的に活動を行う。

2006年6月8日

2007年6月11日改定